

学生、教員ら150点展示

県美本館 崇城大芸術学部作品展



崇城大芸術学部の教員や学生らの油彩、彫刻など150点が並ぶ展覧会場＝熊本市中央区

り、教員を含めた学部全体での展覧会は初めて。

稲葉未来さん（7期生）の日本画「夏の果て」は、枯れたヒマワリを画面に大きく丹念に描き哀愁を漂わせる。熊谷有展教授の油彩「HONEY」は、明るい点描で穏やかな雰囲気の子像を浮かび上がらせた。

阿蘇の採石場をドローンで撮影した写真で「破壊や発展の営み」を伝える植野葉潤さん（4年生）の作品も目を引く。「わ」をテーマに万葉集の一首をビジュアルで表現したグラフィック作品などもある。

（魚住有佳）

刻、グラフィックデザインなど個性豊かな約150点が並ぶ。24日まで。

同学部が来年設立20年を迎えるのを機に開いた。美術とデザインの2学科8コースの有志が出品してお

崇城大学（熊本市西区）の芸術学部の教員、在学生、卒業生による作品展「SODAS

TORIES：EPIISODE19」が19日、同市中央区二の丸の県立美術館本館で始まった。日本画や洋画、彫